

麻布学園創立120周年記念「連続教養講座」

第3回 どうなる日本、どうする日本

— 日本の若者・教育、その未来について語る —

対談者：氷上信廣氏、宮台真司氏

(麻布学園前校長、1963年卒)

(首都大学東京教授、1977年卒)

日時：2013年11月2日(土) 会場：麻布学園講堂
(13:00開場 13:30開始)

入場無料です。学園関係者に限らずどなたでもご参加いただけます。



1974年に母校・麻布学園の社会科(公民、倫理)教員となられて29年間、2003年4月からは校長として10年間、40年近くの長きにわたって麻布の教育に携わり、若者に接してこられた氷上氏。校長としての折々の思い、生徒への言葉は、『汝の馬車を星に繋げ 麻布学園とともに 上・下』(「麻布文庫」第15巻)で知ることができますが、ご自身の青少年期、そして教員としての経験において、現在および未来の日本、とりわけ若者・教育についてどのようにお思いなのでしょう。第一線は退かれましたが、その思いを大いに語っていただきたいものです。



氷上氏とは、教員と生徒として同じ時間を共有したことがおありで、麻布への愛着を隠されない宮台氏。守備範囲の広い言論活動は皆さんもよくご存じだとは思いますが、『制服少女たちの選択』(1994年)以来、最近でも『14歳からの社会学 これからの社会を生きる君に』(2008年)、『中学生からの愛の授業』(2010年)、『きみがモテれば、社会は変わる。』(2012年)などによって、これからの社会、日本について若者に語りかけていらっしゃいます。父親である宮台氏としても、これからの日本、若者、教育は気になるところでしょう。

お二人のトークに、乞うご期待！